

令和4年度 鹿角市立八幡平中学校 学校評価書

<参考表示>

市の施策の基本方向	評価指標（学校の実践課題）	自己評価 中間	外部評価 中間	自己評価 年度末	外部評価 年度末	市の施策の柱
基本方向1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	1 主体的・協働的な学びの実現 ・あたたかい聴き方、やさしい話し方の実践 ・「見方・考え方」を働かせた場面の明確化 2 望ましい学習集団の育成 ・hyper-QUの分析を生かした学級づくり ・学級活動の充実	3	3	3	3	①なぜ学ぶのかを明確にした主体的・対話的で深い学びの実現 ②望ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
基本方向2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます。	1 ふるさとに学び、ふるさとを支える気概の育成 ・自分の言葉でふるさとの魅力を紹介できる生徒の育成 2 自らの将来と生き方の探求 ・進路学習、職場体験学習、キャリアアップ講座等での振り返り活動の充実	3	3	3	4	①社会的・職業的自立を目指す教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
基本方向3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	1 言語活動の充実 ・八幡平ボランティアガイドNEXT ・全校ビブリオバトル 2 ICTリテラシーの育成 ・各教科授業におけるICT活用 ・情報モラル教室	4	4	4	4	①ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
基本方向4 豊かな心を育みます。	1 認め合う、高め合うなど豊かな心の醸成 ・TTによる道徳授業 ・八小との連携活動 2 豊かな心を育む読書活動の推進 ・読書フェスタ、ビブリオバトル	3	4	3	4	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成 ②規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
基本方向5 健やかな体を育みます。	1 体力の増進 ・保体授業時のウォーミングアップの工夫 2 望ましい生活習慣の確立 ・ヘルスライフウィーク ・地域一斉のノーメディアの日	3	3	3	3	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
基本方向6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	1 不登校傾向の生徒への支援 ・SOSシート、SCの活用 2 特別支援教育の充実 ・特別支援教育に関する研修の実施 ・特別支援教育支援員の活用	4	4	4	4	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
基本方向7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくります。	1 危機管理に対する意識の向上と事故の未然防止 ・危機管理マニュアルを活用した安全教育の充実 2 危険時における行動規範の育成 ・地域の特性に応じた避難訓練の実施	4	4	4	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②通学の安全対策 ③学校の危機管理対策
基本方向8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	1 教職員の資質向上 ・研究の柱「3つのまり」で全教科で共通実践をする。 ・授業を見合う会や指定訪問で授業力を向上させる。	3	3	3	4	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
基本方向9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	1 コミュニティー・スクール制度の推進 ・熟議を深めて、取組内容を具体化する R3「八幡平の子どもたちをどんなふうに育てたいか」 ↓ R4「そのために、私たちは何ができるか」	3	3	3	3	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

外部評価の評価基準	
5	きわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

自己評価の評価基準	
5	実現状況は極めてよい
4	実現状況は良好である
3	実現状況はおおむね良好である
2	実現状況はやや不十分である
1	実現状況は不十分で努力を要する。

達成率90%以上

達成率80～90%

達成率60～79%

達成率50～59%

達成率49%以下

基本方向1「自己実現のために必要な確かな学力の定着」						
児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	4月に実施した学力テストでは、全国平均と同等、秋田県や鹿角平均を若干下回る結果であった。	中間	3	中間	3	高校受験でも表現力重視の傾向にある。引き続き生徒の学力を伸ばしてほしい。
年度末	2学期後半に行った学習状況調査では、1・2年とも国・社・英の3教科で県平均を上回った。	年度末	3	年度末	3	生徒の伸びが感じられる。引き続き個及び学級の実態に応じたきめ細かな指導をお願いしたい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」については、年度初めの学習集会で確認し、各教科・学級で実践している。聴き方は、話し手に体を向けたり反応しながら聴くなど成果が見られる。しかし、話し方については、聴き手を意識した伝え方に課題があり、再度、学習のルールを含め全校・全職員での確認が必要である。					
	【年度末】 ・各教科・学級での指導により、「あたたかい聴き方」については定着してきた。「やさしい話し方」については、聴き手の多い方を向いて話すなど成果の見られる部分もあるが、声の大きさや最後まではっきり話すなどまだまだ指導が必要な場面も多い。 ・今年度からの朝学習の実施により、基礎的・基本的な学習事項の定着につながってきている。生徒側からも「基礎的な部分の確認ができる」とプラスの意見も聞かれた。また、年度途中ではあったが、読書の時間の確保も必要との意見があり、週2日の朝読書を実施した。					
評価指標（学校の実践課題）			具体的な取組内容			
1 主体的・協働的な学びの実現 ・あたたかい聴き方、やさしい話し方の実践 ・「見方・考え方」を働かせた場面の明確化 2 望ましい学習集団の育成 ・hyper-Q Uの分析を生かした学級づくり ・学級活動の充実			・学習委員会による学習集会の実施 ・ビブリオバトルの計画と実施 ・ビタミンタイム ・朝学習、朝読書の実施 ・道徳の授業の充実			
<資料>						
1 生徒の自己評価 【平均達成率 84.6%→86.0%】 ①話し手を意識し、友達や先生の話を考えながら聴いている 85%→88% ②自分の言葉で自分の思いや考えを伝える 83%→83% ③学校で友達と楽しく生活できている 86%→87%						
2 保護者の評価 【平均達成率 75.8%→74.4%】 ①授業が理解できているようである 72%→70% ②家庭での学習（宿題、自主学習）ができている 74%→74% ③相手を認めながら話を聴くことができる 78%→77% ④自分の言葉で思いや考えを伝えることができる 73%→71% ⑤学校生活を楽しんでいる 82%→80%						
3 教職員の自己評価 【平均達成率 66%→74.6%】 ①あたたかい聴き方、やさしい話し方の推進 68%→75% ②3つの「まり」の学習過程 65%→73% ③「見方・考え方」を生かした授業 70%→75% ④生徒同士の学び合い 65%→77% ⑤学び合いを通じた深まりや広がり 65%→75% ⑥望ましい学級づくり 63%→73%						



1 A 英語の授業



1 A 英語の授業

基本方向2「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	感染症の状況が落ち着いたことにより、諸行事を計画通りに実施する見通しをもち、意欲的に取り組んでいる。	中間	3	中間	3	回答しづらいアンケートの文言もあるかもしれない。引き続き家庭との連携を図りながら地域を支える学校づくりを目指してほしい。
年度末	一般客へのガイドを経験したことで、コミュニケーションの楽しさを実感し、明るい言動が増えている。	年度末	3	年度末	4	3年ぶりの一般客向けボランティアガイドは、3年生にとっても思い出深いものとなった。生徒のみならず保護者も地域への興味・関心を高めていかなければならない。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・校外学習で、コロナ禍の影響により1・2年生が鹿角市を、3年生の修学旅行は北東北を巡って学んできた。生徒たちは身近な地域のことをより深く学ぶことができた。また、1学期に行ったキャリアアップ講座は、ふるさと八幡平の魅力を再認識すること貴重な機会となった。学んだことをこれから本格的に始まるボランティアガイドで多くの方々に発信することができるように支援しているところである。 ・高校説明会では、鹿角統合高校について昨年よりも具体的に説明があり、生徒も保護者も昨年よりも興味をもって参加する様子が見られた。今年度から変わる受検制度についても生徒と保護者に伝えながら、学級活動の時間を中心に適切な進路学習を進めていけるようにしたい。					
	【年度末】 ・3年ぶりの一般客へのガイドを実施することができた。全校生徒が初めての体験で、初めは恐る恐る話しかける様子が見られたが、コミュニケーションをする楽しさを感じながら、ふるさとの魅力を発信する生徒の姿がたくさん見られた。 ・2年生は2日間の職場体験学習を通して、働くことの大変さや充実感を感じることができ、将来の職業選択につながる貴重な体験となった。					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
1 ふるさとに学び、ふるさとを支える気概の育成 ・自分の言葉でふるさとの魅力を紹介できる生徒の育成		・ボランティアガイドNEXT ・キャリアアップ講座 ・職場体験学習の充実 ・進路学習の充実 ・鹿角を学ぶ1年校外学習				
2 自らの将来と生き方の探求 ・進路学習、職場体験学習、キャリア						
<資料>						
1 生徒の自己評価 【平均達成率 80.5%→84.5%】 ①ボランティアガイドやキャリアアップ講座でふるさとの興味関心が高まっている 78%→81% ②進路学習を通して自分の進路や将来について考えるようになってきた 83%→88%						
2 保護者の評価 【平均達成率 69.3%→70.6%】 ①ふるさとについて考えたり、興味や関心をもったりしている 69%→65% ②将来の生き方や卒業後の進路について考えている 69%→76% ③地域行事に積極的に参加している 70%→71%						
3 教職員の自己評価 【平均達成率 74%→81.5%】 ①ふるさとへの愛着心や自ら支える気概の育成 78%→93% ②自分の将来や生き方に関する学び 70%→70%						
				ボランティアガイド 		

基本方向3「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	GIGAスクール構想2年目を迎え、モラルを守りながら活用しようとしている。	中間	4	中間	4	ICT機器の活用は、メディアリテラシーと合わせつつ、子どものやる気を生かしながら引き続き指導をお願いしたい。
年度末	chromebookを学習の一つのツールとして効果的に使いこなすことができる。	年度末	4	年度末	4	生徒の関心の高さがうかがえる。引き続きデジタルとアナログそれぞれの良さを生かしながら両立を図ってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・ボランティアガイドやビブリオバトルの取組において、コミュニケーション能力の向上が図られており、本番を前にして益々意識は高まってきている。しかし、それらの取組が、教科の授業での発表等には効果的に発揮されておらず、課題となっている。 ・ICT機器を活用する能力は充分定着しており、初めてのアプリにも対応できる力を有している。今後は効果的に活用するための方法やコミュニケーションツールとしての活用の工夫が課題となっている。					
	【年度末】 ・生徒総会の議案書や全校アンケートなどで活用が図られ、紙や時間の節約につながった。 ・新たに電子黒板3台が導入され、これまで主に社会や英語での活用だったものが、他の教科でも幅広く活用できるようになってきた。また、ICT機器の活用は生徒の意欲を引き出すことにもつながっているようだ。 ・これからは、それぞれの教科や活用場面において、紙や黒板、電子黒板やchromebookの効果的な活用方法を見出していくことが課題となると思われる。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 言語活動の充実 ・八幡平ボランティアガイドNEXT ・全校ビブリオバトル	・各教科における話し合い活動を中心とした協働的な学び ・八幡平ボランティアガイドNEXT（尾中との交流等） ・全校ビブリオバトル ・各教科等の授業におけるICTの活用 ・情報モラル教室
2 ICTリテラシーの育成 ・各教科授業におけるICT活用 ・情報モラル教室	

<資料>

1 生徒の自己評価 【平均達成率 89%→90.3%】
①各教科の授業や諸活動では、友達と積極的に話し合ったり協働したりしている 88%→89%
②授業でPC、Chromebook、インターネット等を適切に使うことができる 87%→91%
③スマホなどネットに接続できる機器は善悪を判断し適切に使うことができる 92%→91%

2 保護者の評価 【平均達成率 82.5%→83%】
①他の人とコミュニケーションをとりながら活動できる 79%→80%
②コンピュータやタブレット等のICT機器を操作できる 86%→86%

3 教職員の自己評価 【平均達成率 70%→76%】
①協働的な学びを通じたコミュニケーション能力の向上 70%→73%
②ICTを活用した授業の推進 70%→75%
③ICTの適切、効果的な活用 70%→80%

全校ビブリオバトル





基本方向4「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	生徒会活動、全校縦割り活動、学級の活動に意欲的に取り組んでいる。	中間	3	中間	4	生徒の実態に応じた朝学習や朝読書の取組がありがたい。ビブリオバトルは親も楽しみである。引き続き指導の充実を望む。
年度末	体育祭や八中祭、ボランティアガイドを通してお互いの良さを認め合い、他学年からも良い刺激を受けている。	年度末	3	年度末	4	校内の物品等破損事案のために教職員の自己評価が低くなったようだが、引き続き生徒の道徳的実践力・判断力を育ててほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・清掃やボランティアガイド、体育祭などの全校縦割り活動において、上級生が下級生を励ましたり鼓舞したりする姿や、お互いの活躍を認め合う場面などが多く見られ、一定の成果が認められる。 ・ＴＴによる道徳の授業では、学年部でＴ１を持ち回りにしながら取り組んでいる。学校行事や学級の状態に関連付けた内容を題材を取り上げ、道徳授業をより普段の学校生活に活かせる工夫をしている。 ・読書活動に関しては、1学期は朝の時間を学習時間として設定していたことから、生徒が読書をする時間があまり得られなかった。2学期は朝読書を設定した。ビブリオバトル等の充実を図っていきたい。					
	【年度末】 ・学校行事では生徒が学年毎の役割を自覚しながら活動することができていた。来年度の見通しをもたせながら活動させることを職員全員が意識していた。 ・ＴＴによる道徳では、職員の役割分担を明確にして得意な価値項目を受けもって授業を行うことが効果的であった。行事やクラスの実態に合わせた題材を活用していた。 ・八幡平小との連携活動では、アルミ缶回収に協力していただいた。これからも共同で集め続ける基盤を作っていきたい。 ・ビブリオバトルでの読書活動は負担もあるが得るものが大きい。生徒は楽しんで発表を聴いていた。あたたかい聴き方や表現力を培うという点で効果的な活動だと考えられる。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 認め合う、高め合うなど豊かな心の醸成 ・ＴＴによる道徳授業 ・八小との連携活動 2 豊かな心を育む読書活動の推進 ・読書フェスタ、ビブリオバトル	・全校縦割りによる諸活動（清掃、生徒会活動等） ・生徒会活動の充実 ・八小と連携した活動 ・ＴＴによる道徳の授業 ・朝読書、ビブリオ、読書フェスタ、市図書館と連携した学び

<資料>

1 生徒の自己評価 【平均達成率 76.6%→81.3%】

- ①全校縦割りの活動（清掃、合唱、ガイド等）、生徒会活動、学級での活動は頑張っている 90%→90%
- ②道徳では様々な考え方や生き方をともに自分自身を振り返っている 81%→85%
- ③朝読書や全校ビブリオなど読書活動で本に親しんでいる 59%→69%

2 保護者の評価 【平均達成率 80.6%→81.6%】

- ①生命尊重や思いやりの心が育っている 83%→85%
- ②ルールやマナーを守るなどの社会規範が身に付いている 80%→80%
- ③あいさつや年齢相応の礼儀が身に付いている 79%→80%

3 教職員の自己評価 【平均達成率 64.6%→66%】

- ①認め合う心や思いやりの心の育成 73%→70%
- ②道徳の授業の充実と道徳的判断力・心情・実践意欲や態度の育成 68%→64%
- ③朝読書や全校ビブリオなど読書活動を通した豊かな心の育成 53%→64%



基本方向 5 「健やかな体の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	2年生は身長体重・体力得点ともに全国平均を下回っている。3年生は体格が向上し体力も向上している。	中間	3	中間	3	ヘルスライフウィークやノーメディアデーは動機付けに効果がある。この日は親子のふれあいの機会にもなっている。引き続き家庭と連携して「メディアに使われない」生徒を育ててほしい。
年度末	新体力テストの結果から、2年男子は握力以外全てが県平均を下回っていた。メディアについては、なかなか時間を減らすことのできない生徒が各学年にいる。	年度末	3	年度末	3	個々の体力向上に向け、ICTも有効に活用してほしい。メディアとのつきあい方については、保護者と連携して自分を律する力、自己管理能力を鍛えてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・体力や運動能力は向上しており、けがの発生件数も昨年度に比べ減少してきているが、柔軟性が課題である。今年度は、各部活動でランニングを取り入れた練習を行っているので、走るだけではなく柔軟性を高める運動も取り入れたい。 ・ヘルスライフウィークを通じて保護者と話し合った我が家のルールを決め、規則正しい生活を意識した取り組みを行っているが、メディア利用時間上限2時間までという意識が浸透していない。生徒保健委員会や学校保健委員会、保健だより等を通じて情報提供を強化すると共に、家庭での毅然としたルールの徹底を図る姿勢が必要である。					
	【年度末】 ・2年生男子の体力向上に力を入れる必要がある。授業時のウォーミングアップを見直して新たなプログラムを組み取り組ませたい。また、各部活動でも対策を考え冬期間の練習を工夫して取り組ませたい。（筋力系、瞬発力、持久力） ・ヘルスライフウィークやノーメディアにも取り組んでいるが、改善されない生徒が固定化してきている。全校で現状やルールについて話し合う機会を設定したい。					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
1 体力の増進 ・保体授業時のウォーミングアップの工夫 2 望ましい生活習慣の確立 ・ヘルスライフウィーク ・地域一斉のノーメディアの日		・ヘルスライフウィーク（年4回） ・はちまんたいノーメディアの日チャレンジカード（毎月第1木曜日） ・保健集会、学校保健委員会の充実				
＜資料＞						
1 生徒の自己評価 【平均達成率 80%→82%】 ①体育の授業や部活動等を通して、健康を意識し丈夫な体づくりに努めている 85%→88% ②メディア機器は長時間利用せず、規則正しい生活を心がけている 75%→76%						
2 保護者の評価 【平均達成率 71.3%→71.3%】 ①健康で適度な体力が身に付いている 82%→83% ②休日を含めて規則正しい生活をしている 67%→65% ③テレビ、スマホ、ゲーム等のメディアを適切に利用している 65%→66%						
3 教職員の自己評価 【平均達成率 73%→75%】 ①体育の授業や部活動等を通しての体力向上 73%→77% ②ヘルスライフウィーク等による望ましい生活習慣の確立 73%→73%						
 代表生徒も参加した学校保健委員会						

基本方向6「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	特別支援学級及び支援が必要な生徒について教職員で共通理解を図って指導に当たっている。	中間	4	中間	4	不登校がない現状はありがたい。引き続き見守りをお願いしたい。特別支援学級の手厚い支援もありが良かった。
年度末	問題行動対応や個別に必要な支援等について、職員間で情報共有及び共通理解を図りながら進めている。	年度末	4	年度末	4	不登校傾向の生徒はいるが、SOSシートの活用や生徒との対話・保護者との連携など、学校のきめ細かい指導には感謝している。
自己評価の概要と学校の改善策		【中間評価】 ・些細なトラブルが多かった、その都度、面談を繰り返し指導してきた結果、1学期後半にはほとんどなくなった。しかし、その中で2件の校内破損があったのが残念である。当事者にケガがなかったのが幸いである。 ・不登校に関しては、病気による欠席や遅刻者があったが、現在のところは認定者はいない。しかし、心配な生徒も各学年にいますので、変化を見逃さず全職員で見守っていきたい。				
		【年度末】 ・校内破損が5件あった。当事者にケガはなかった。また、友達とのトラブルでケガをさせてしまった事案もあったので落ち着いた学校生活を送らせたい。 ・不登校生徒については、10月中旬から2年生女子1名が登校できていない。11月からは放課後の部活動には参加できている。部活動に来たときに学担や学年部の先生が話をし登校時間を早めることを促している。				

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 不登校傾向の生徒への支援 ・SOSシート、SCの活用 2 特別支援教育の充実 ・特別支援教育に関する研修の実施 ・特別支援教育支援員の活用	・SOSシートによるいじめや不登校の未然防止 ・不登校生徒の居場所づくりと学級復帰に向けた支援 ・スクールカウンセラーや関係機関の活用

<資料>

1 生徒の自己評価 【平均達成率 86%→87%】

①日頃から友達と仲良く過ごしている 86%→87%

2 保護者の評価 【平均達成率 84%→81%】

①学校の友達と仲良く過ごしている 84%→81%

3 教職員の自己評価 【平均達成率 76.6%→79%】

①不登校やいじめの未然防止や早期発見 80%→86%

②不登校生徒の居場所づくりや学級復帰に向けた支援 80%→75%

③スクールカウンセラーやこもれば教室等の関係機関の活用や連携 75%→77%

④学習支援員と連携した特別な支援が必要とする生徒への支援 73%→77%

⑤全校体制での特別支援教育 75%→80%



基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	各学年に注意が必要な生徒が在籍しており、落ち着いた校内生活について指導していく必要がある。	中間	4	中間	4	様々な災害に備えた安全対策をお願いしたい。自転車点検についてはより負担が少なく効果的な方法を考えてほしい。
年度末	校内の破損事案は2学期も発生した。その都度保護者とも連絡を取り合ってきたが、落ち着いた生活ができるよう引き続き留意していきたい。	年度末	4	年度末	4	雪庇や氷の落下など、危険な箇所があるようだ。引き続き生徒と連携した安全点検及び対策を講じてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・ 蜂の巣や破損など、危険事象の発見及び対応については、職員のみならず生徒からも情報を得ながら実践することができた。 ・ 1学期は地震及び火災発生の避難訓練を実施した。2学期は地域の実態や昨今の状況を踏まえ、熊被害防止教室を実践する。ボランティアガイド等、生徒の安全を確保しながら進めていきたい。 ・ 近年にない大雨被害が本県でも発生していることを踏まえ、河川増水・氾濫に備えて訓練も実践したい。					
	【年度末】 ・ 2学期は不審者対策を実施予定だったが、地域の実情を踏まえて熊被害防止教室を開催した。県からも講師を派遣していただき、有意義な教室となった。 ・ 河川増水対策の引き渡し訓練については、幼保小中で連携した実践になるようにしたい。 ・ 郡市内では比較的新しい校舎ではあるが、様々な問題点もある。その都度生徒や教職員から情報を得ながら対策を講じていきたい。					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
1 危機管理に対する意識の向上と事故の未然防止 ・ 危機管理マニュアルを活用した安全教育の充実		・ 危機管理マニュアルを活用した事故の未然防止 ・ 交通安全教室 ・ 学校内外での生活における安全指導 ・ 避難訓練の充実（河川氾濫時の垂直避難の訓練等）				
2 危険時における行動規範の育成 ・ 地域の特性に応じた避難訓練の実施						
< 資料 >						
1 生徒の自己評価 【平均達成率 91%→91%】 ①ルールを守り、交通安全やけがの防止を心がけた生活をしている 91%→91%						
2 保護者の評価 【平均達成率 82%→82%】 ①交通安全やけが防止を心がけた生活をしている 82%→82%						
3 教職員の自己評価 【平均達成率 76.5%→73.5%】 ①事故の未然防止に対する意識の向上や行動規範の育成 73%→77% ②日常点検、定期点検等による安心安全な教育環境の保全 80%→70%						

熊被害防止教室





熊被害防止教室

基本方向 8 「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	鹿角中学校授業研究会の会場校であり、「3つのまり」による共通実践を推進していく。	中間	3	中間	3	引き続き授業力向上・学力向上に向けてがんばってほしい。また部活動改革も実態を考慮しながら進めてほしい。
年度末	鹿角中学校授業研究会の公開により、資質・能力を育成する「主体的・対話的で深い学び」について全職員で研修を深められた。	年度末	3	年度末	4	市内全体から見ると八中生は伸びていると感じる。教職員の業務改善についても引き続き工夫して行ってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・授業を見合う会や3回の指定訪問では授業者の先生方に研究の柱に基づいて授業を提示していただいた。鹿角教研に向けて成果と課題を明確にしていきたい。「生徒の姿での検証」の為「3つのまり」と「話し合いスタンダード@八中」を全教科で実践していき、生徒の変容を実感できるようにしたい。					
	・11月の鹿角中学校授業研究会では、「3つのまり」と「話し合いスタンダード@八中」を取り入れた授業を見てもらった。各教科の共通実践や教科の見方・考え方を働かせた学習活動、教師のチャレンジ、ICTの活用などを認めていただいた。今後はもっと狙いに沿った発問や学習課題設定のさらなる工夫をし、骨太の学力を付ける授業を実践したい。 ・研究会後も「授業を見合う会」や効果的な実践事例を会議で紹介するなどし、全教科で授業力を向上させていきたい。					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
1 教職員の資質向上 ・研究の柱「3つのまり」で全教科で共通実践をする。 ・授業を見合う会や指定訪問で授業力を向上させる。		・全職員による「授業を見合う会」の実施と全体共有 ・指定訪問や鹿角中学校授業研究会に向けての指導案検討会 ・鹿角中学校授業研究会 ・鹿角中学校授業研究会の振り返り ・効果的な取組をしている授業の参観と全体共有				
< 資料 > 1 教職員の自己評価 【平均達成率 74%→73.5%】 ①人事評価を基にした能力開発 75%→70% ②全校体制での強化研究を通した指導力の向上 73%→77% 2 教職員の自己評価 【平均達成率 65%→66%】 ①業務改善計画に基づいた働き方改革 65%→66%						
						

基本方向 9 「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	学校運営協議会2年目を迎えている。年間3回の会議を計画的に運営していく。	中間	3	中間	3	引き続き効果的な小中連携を図ってほしい。熟議等を通して八幡平地区なりのゴールの見える化を工夫してほしい。
年度末	年度末を迎えて、施策の方向性が見えてきたが、同時に各事業の曖昧さや無駄も見えてきている。計画を見直して精度を上げた取組にしていきたい。	年度末	3	年度末	3	3年に1回実施の「はちまんたい教育の日」がイベント化・形式化しないよう、本来の趣旨をしっかりと共通理解する必要がある。コロナによる制限はあるが、今後も地域連携を図ってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・6／1（水）、「第1回学校運営協議会」において、経営説明の承認、熟議の開催、計画の確認まで進めることができ、見通しを持つことができた。 ・今年は来賓を招待しての「八中祭」「はちまんたい教育の日」を計画しています。参観の上、ご意見をいただきたいと思います。					
	【年度末評価】 1. 学校運営協議会（コミュニティ・スクール制度）2年目を計画通りに推進してきた。 ①6／1「第1回」経営説明と熟議、②9／7「第2回」中間評価、③2／6「第3回」年度評価 2. 保小中連携を推進して、八幡平地域の子どもを地域全体で育てる。 ①5／31中学校区研修会（P6会議、3P会議の実施）、②11／5「はちまんたい教育の日」 3. ふるさと・キャリア教育を推進して、八幡平・鹿角への愛着を深める。 ①8／5現場型職場体験学習、②10／8・9ボランティアガイド、③10／20中学生交流会					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 コミュニティー・スクール制度の推進 ・熟議を深めて、取組内容を具体化する R3「八幡平の子どもたちをどんなふうに育てたいか」 ↓ R4「そのために、私たちは何ができるか」	・学校運営協議会の立ち上げと運営 ・P6会議と3P会議による小中連携教育の推進 ・「はちまんたい教育の日」の実施 ・「はちまんたい運動」の推進 ・地域人材や地域素材の積極的な活用

< 資料 >

1 保護者の評価 【平均達成率 79%→79%】
①学年報、学年通信、保健だより、PTAなどで学校の様子が分かる 79%→80%
②学校と保護者とで連携ができている 81%→78%

2 教職員の自己評価 【平均達成率 74.6%→76.6%】
①コミュニティ・スクール制度の理解と地域の特色を生かした教育の推進 73%→73%
②学校と家庭の連携 78%→82%
③小中連携を生かした豊かな教育の推進 73%→75%



建設業体験学習

